

全学共通教育「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. 概要：

今年度の日本語・日本事情のクラスの特徴は、新入生のほかに交換留学生・政府派遣留学生・工学部3年編入学生で構成されていた点である。交換留学の期間が10月～9月のため前後期とも開講当初は、学生に対してのオリエンテーションが必須となる。各クラスとも学生達は欠席も少なく、真摯な姿勢での取り組みが見られた。

2. コーディネーター：大石 寧子

3. 実施概要：日本語 1～8、日本事情：日本事情 I～IV

平成24年度共通教育「日本語」「日本事情」では以下のクラスを開講した。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4			日本事情 I・II	日本事情 III・IV	
5・6					
7・8	日本語 1・2	日本語 7・8			
9・10	日本語 3・4	日本語 5・6			

前期：日本語 1・3・5・7、日本事情 I・III、後期：日本語 2・4・6・8 日本事情 II・IV

日本語 1 前期

- ・ 担当者： 遠藤かおり
- ・ 受講人数： 6名（中国4名、マレーシア2名）
- ・ 使用教材： 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
石黒 圭・筒井千絵 スリーエーネットワーク
- ・ 概要： 本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。四技能のうち、「書く」ことを主とし、日本語の基本的な構造に深くかかわる文法項目の見直しと強化を行った。授業を通して、誤解を与えない正確な表現力と語彙力の強化をも行い、実際の授業や講義・ゼミにおいて、身につけた日本語力で自ら発信ができる基盤固めを行った。授業は、数回書かせた課題作文を元に不注意なミスや不適切な表現を取り上げ、問題の意識化

を図ることでさらなるレベルアップを図った。(授業展開については、紀要に報告)

日本語 2 後期

- ・ 担当者： 遠藤かおり
- ・ 受講人数： 8名（中国7名、マレーシア1名）
- ・ 使用教材： 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
石黒 圭・筒井千絵 スリーエーネットワーク
- ・ 概要： 本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。アカデミックジャパニーズ（レポート・小論文を書く、プレゼンテーションをする）の基礎となる部分の習得であり、時事問題を含む身近なテーマをもとに、自らの思考をまとめる訓練をした。その過程で、自分でも気づかずに使用していた日本語の見直しをし、問題を意識化することでレベルアップを図り、関連教科への橋渡しとした。そのため、他のクラス活動におけるスムーズな活動の遂行や論理的な文構成ができることを念頭において行った。(授業展開については、紀要に報告)

日本語 3 前期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 15名（中国9名、韓国1名、モンゴル1名、マレーシア2名、コロンビア1名、ベトナム1名）
- ・ 使用教材： アジア人財資金構想事業共通教材、「日本企業への就職ービジネス会話トレーニング」岩澤みどり他アスク
- ・ 概要： 将来の日本企業への就職を踏まえ、社会人／大人になるための日本語の習得を目標とした。事例を通し、日本人の考え方・マナー等も含めて、その場にふさわしい表現や対応を学んだ。就活の流れや企業の求める人材についても学び、実際に日本企業で働く先輩の話聞く機会を設定した。また職場での話題も考慮し、毎回20分ほど担当を決めいろいろなジャンルでのその時の話題について担当学生による新聞記事の解説を行った。

日本語 4 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 12名（中国8名、韓国3名、モンゴル1名）
- ・ 使用教材： アジア人財資金構想事業共通教材、「日本企業への就職－ビジネス会話トレーニング」岩澤みどり他アスク
各種事例
- ・ 概要： 公的な場面や職場での事例を元に、その原因・理由、状況、文化の違いを考え、適切な表現やそれを支える日本人の考え方・常識・マナーなどについて考えるケーススタディの形をとった。また実際に会議での発話の展開、電話対応、伝言メモの取り方などにも広げ、敬語や丁寧語の復習・習得も行った。小グループでのディスカッションの形態を多々取り入れた。

日本語 5 前期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 8名（中国5名、マレーシア2名、コロンビア1名）
- ・ 使用教材： 「大学・大学院 留学生の日本語 - 論文読解編」アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク、論文、新聞・雑誌の記事、
広告 他
- ・ 概要： 大学生活においてレポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書く機会が多い。そのための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。その基礎として異なったタイプの文章の読解演習を入口として、「読む」能力を向上させると共にそれを支える「書く、話す、聞く」の四技能全てを伸ばす様々なタスクをピアワークを通して行った。最終的には自分の思いや考えを短い文の中で最も的確に表現する手段として①自国または母国の大学②徳島大学③徳島の3つのキャッチコピーを作成し、発表した。



キャッチコピー
「徳島」



キャッチコピー
「徳島大学」

日本語 6 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 人数： 10名（中国8名、マレーシア1名、コロンビア1名）
- ・ 使用教材： 「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」大島弥生他 ひつじ書房、「日本語Eメールの書き方」築 晶子他 The Japan Times 他
- ・ 概要： 大学生活に必要な「小論文作成」を最終目標とした。論文の書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」を学習した。お願い・誘い・お詫び・断りなどをテーマにし、作成上のルール、構成、添付方法なども含めて学び、宿題の提出を実際にメール添付の形で毎回実施した。その後小論文の作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降も受講者同士や日本人学生とのピアレスポンスを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの1つとして、アンケートの作成・アンケートの取り方・集計・分析のしかたも学習した。小論文のタイトルは以下のようなものである。

- ① マレーシアの多民族
- ② 昼ごはんの取り方
ー弁当の視点から見る現代日本人の生活
- ③ 女子学生の化粧について日本と中国の違い
- ④ 日本の温泉文化
- ⑤ 徳島大学生の勉強に対する積極性
- ⑥ 日本の着物の文化について
- ⑦ 日本人の女子学生の冬のファッション
- ⑧ 昼寝の必要性
- ⑨ 近視になった原因ー中国の大学生を対象にして
- ⑩ 徳島大学生の夢

日本語 7 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（韓国3名、中国5名）
- ・ 使用教材： 『パパとムスメの7日間』館ひろし、新垣結衣主演 DVDTBS テレビ、及び 視聴用自主作成補助教材

- ・ 概要： 生教材を使うことによって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、学校、家庭そして会社という場面によって違う、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく深く日本語及び日本社会を理解することを目的とした。学生の言葉や会社での地位による待遇表現の使い分け等を確認し、また話し合いを行った。

日本語 8 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 14名（中国11名、スウェーデン1名、コロンビア1名、クウェート1名）
- ・ 使用教材： 『ハケンの品格』篠原涼子主演 DVD フジテレビ映像企画及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要： 生教材を使うことによって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、会社における様々な場面を通して、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく細部の日本語及び日本社会を理解することを目的とした。各時間後にドラマについて話し合う「対話の場」を設け意見交換をした。最終課題はドラマの中の一人の人物を取り上げ、物語の進行とともにその人物の変化（発言、行動、態度、価値観等）を細部に注目し記述する課題を行った。

日本事情 I 前期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 13名（韓国4名、中国5名、マレーシア2名、ベトナム1名、コロンビア1名）
- ・ 使用教材： 適宜プリント配付
- ・ 概要： プロジェクトワークを通して、日本・徳島を知ることを目的とする。今回は、最終日の発表をその時期に実施されたサマースクールの授業体験にあてた。限られた時間なので、それを踏まえて、各自の希望調査テーマの中で共通性があり括れ

るものを括り、7 グループにした。基本的な知識は講義型で取得したが、調査に関して各グループが積極的に取り組んだ。情報収集のため、地域・学生サポーターへのインタビューも行った。発表テーマは以下のようなものである。

- ① 四国八十八カ所
- ② 吉野川と川遊びー自然を体験しましょう
- ③ 徳島マチ☆アソビ
- ④ みんなで楽しもう！B級グルメ
- ⑤ 日本と外国の違い
- ⑥ 徳島の世界展開ー徳島を売り出す
- ⑦ 日本の祭りーお盆・三大祭り・阿波踊り



最終発表会



サマースクール参加者・通訳留学生・
日本人の前で

日本事情Ⅱ 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 12名（中国9名、コロンビア1名、マレーシア2名）
- ・ 概要： 徳島の象徴の1つである「吉野川」の様々な面を通して徳島を知ると同時に自国や故郷についても考えてみる。また様々な人の講義を聞き、講義に対する準備と振り返りの活動を通して、大学での授業の形式を身につける。最終的には各自でテーマを決め、調査発表を行った。発表のテーマは以下のようなものである。

- ① 故郷の川ー吉野川
- ② 吉野川が作った祖谷地方
- ③ 吉野川の生態系
- ④ 徳島の水運

- ⑤ 吉野川と洪水
- ⑥ 吉野川のごみ問題と対策
- ⑦ 第十堰と三峡ダム
- ⑧ 吉野川と観光
- ⑨ 吉野川と下水道
- ⑩ 藍の盛衰
- ⑪ 四国の命－吉野川
- ⑫ 吉野川が育てた徳島農業

日本事情Ⅲ 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 12名（韓国4名、マレーシア1名、ベトナム1名、ロシア1名、中国4名、台湾1名）
- ・ 使用教材： 『視点・論点』NHK テレビ放送番組及び関連資料と自主作成教材
- ・ 概要： NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。この「視点・論点」は国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説している番組である。この生教材から専門家の提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルについて考えることを学習の目的とした。最終課題として、「日本人への提言」をテーマとする原稿を作成しさらにスピーチ発表会を日本人の聴衆の前で行い、多くの日本人から日本語そのものと提言の内容に関する評価を得る場を設けた。スピーチのテーマ以下である。

- ① 「留学生活」
- ② 「今の私になれた理由」
- ③ 「日本に来る前と後」
- ④ 「日本のサービス」
- ⑤ 「日本人の先輩と後輩の関係」
- ⑥ 「恋をした私」
- ⑦ 「私の日本でのバイト生活」
- ⑧ 「日本のレストランサービス」
- ⑨ 「ゆっくり生活したほうがいい」
- ⑩ 「日本と中国の漢字」

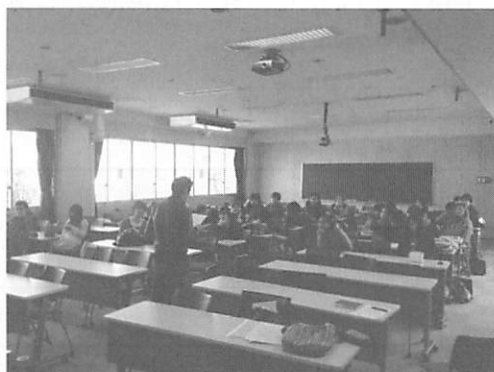
- ⑪ 「日本人の女性」
- ⑫ 「日本人としての利点」

日本事情Ⅳ 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 14名（コロンビア1名、マレーシア2名、スウェーデン1名、台湾1名、中国9名）
- ・ 概要： NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説するこの番組から、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関しての学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」の原稿を作成した。これ以外に授業内では、また日本人学生及び社会人との協同学習の場を設け、「癒しの空間（ペアになって互いの癒しの空間探しとその紹介文の作成）」発表後、さらに日本人への提言作成に関してはグループワークによって、問題設定-調査-意見交換-最終課題の作-発表会を行った。「日本人への提言」の各テーマは以下のとおりである。

- ① 「鳥居龍蔵と台湾から見た交流」
- ② 「日本人の環境保護の意識」
- ③ 「スウェーデンの料理と和食」
- ④ 「日本の交通機関についての考え」
- ⑤ 「アニメから学ぼう」
- ⑥ 「日本人の交通道德」
- ⑦ 「教育」
- ⑧ 「日本人の友達同士」
- ⑨ 「アニメについての考え方」
- ⑩ 「日本人の二面性」
- ⑪ 「一緒に寮生活を体験しよう」
- ⑫ 「日本のオタク文化」
- ⑬ 「日本の学生の制服」
- ⑭ 「将来を作る」

今期は、学内の共通教育にて開講授業「異文化交流の体験から何を学ぶのか！」(日本人学生13名、留学生1名)と連携し、何回か合同の活動を行った。実験的試みとして評価を含んだ実践報告(2012年度FDカンファレンスin徳島にてパネルセッション発表)、さらに本紀要に論考「交流と対話を通じた学内の連携を考える」として掲載している。



4. 共通教育 共創型学習「国際交流の扉を拓く」後期 金成海、三隅友子、大石寧子

- ・ 受講人数：17名（日本人学生18名、留学生5名、社会人2名）

- ・ 実施内容：

私たちのまわりの「文化」を日本人と外国人と視点からとらえ直す。受講者の対話を通して「文化」・「交流」とは何かを考える。①国際交流とは、②異文化理解とは、③共に生きるとは、をテーマに「異文化コミュニケーション」「日本語と異文化理解」「留学生事情」をはじめ、様々な視点から講義及び体験学習を行った。

授業日程及び各回の内容は、以下の表の通りである。

回数	実施日	担当者	テーマ・内容	
1	10月03日	三隅（1）	オリエンテーションと自己紹介	
2	10月10日	三隅（2）	スロベニアを知る（海外からのゲスト）	
3	10月17日	金（1）	徳島大学の留学生事情	
4	10月24日	三隅（3）	コミュニケーションについて 体験的に学ぶ ・ミスコミュニケーション ・アサーティブ ・リフレクション ・異文化理解 ・多文化共生	
5	10月31日	三隅（4）		
6	11月07日	三隅（5）		
7	11月14日	三隅（6）		
8	11月21日	三隅（7）		
9	11月28日	三隅（8）		
10	12月05日	大石（1）		自文化を知る&異文化を知る 日本人学生・留学生・社会人が小グループになってディスカッション・発表を行う ・異文化理解の道具としての言語の役割 ・日本語教育現場での事例
11	12月12日	大石（2）		
12	12月19日	大石（3）		
13	01月09日	大石（4）		
14	01月23日	大石（5）		
15	01月30日	大石（6）		
16	02月06日	大石（7）	後半の振り返り	